

研修名 マネジメント

令和元年6月24日(月) 9:45~12:15

講演 「幼児期にふさわしい生活」

「遊びを通して学びに向かう力を育む環境構成」

「一人一人の発達の特性に応じた支援及び他職種との協働」

講師 鳴門教育大学 木下 光二 氏

1 講演要旨

- ・子どもにとって遊び込むことが大切である

おもちゃで遊ぶのではなく、おもちゃにして遊ぶことが良い。

遊び込めるようにするために保育者がすることで遊びに繋がる一番のキーワードは「記録」。子どもの様子を見て、面白いと思ったらその場でメモをしたり、写真として残したりすることも大切。姿からその子の思いを見て、その子の遊びを広げていく保育が重要。

- ・集める保育ではなく、集まる保育

集まる保育と言うのは楽しいから子どもから集まってくる。このように子どもがやりたいと思う、主体的な保育を行うのが幼児教育の専門性である。

- ・PDCA サイクル

計画→実践→省察・評価→改善をし、保育をしていく。

- ・アクティブラーニング

「主体的で、対話的で、深い学び」

- ・3つの資質・能力(改正され、高校まで同じ)

「知識・能力」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」

- ・10の姿を見て、子どもを理解する

「上手だね」「すごいね」で終わらせず、子どもの姿の中にこういうことが起きているのだと10の姿から理解を深める。

- ・環境構成

保育者が作った環境のみで遊ぶだけでよいのか。子どもが自分で考えられる自ら主体的に環境に働きかけることが重要である。春夏秋冬、今どのような働きかけをすると良いのか考える。

2 感想

子どもが遊び込めるためには、環境構成がとても重要だと感じた。個々の子どもにとってどのような環境構成をしたら、さらに遊びが広がり、深まるのかを考えていきたいと感じた。日々の子どもの姿を逃さないためにも、記録を日常的にして、子どもの遊びの理解を深めていきたい。

(記録 ひいらぎこども園 子原 由佳梨)